



健康ワンポイントアドバイス

重複服用とお薬手帳の活用法

皆さんはお薬手帳を持っていますか。最近はこの調剤薬局でも「お薬手帳を持っていたら提出してください」と声をかけられるでしょう。

この手帳は平成5年のソリブジン事件(別々の病院で処方された抗ウイルス薬と抗がん剤の併用で、15人が死亡)がきっかけで始まりました。さらに平成7年の阪神淡路大震災では、病院の焼失などで失われたカルテの代わりとして、多くの患者さんを助けてきました。そして平成23年の東日本大震災では、災害時の有用性が再認識されました。

お薬手帳に記入される事項は、薬の名前・服用量・投薬日・投薬日数などですが、それぞれ全て意味のあるものです。「自分の飲んでいる薬くらい分かっている」という人もいるでしょう。しかし、日本で医薬品と認められる品目は約1万5千種類あり、似通った名前も多数あります。同じ薬でも用量(5mgや10mgなど)の違いがあるため、すべての薬を正しく伝えるのは大変なことと思われれます。違う名前でも同成分の薬もあり、



重複して服用すると強い副作用が出たり、腎臓や肝臓に負担がかかったりします。重複服用を防ぐことは自身の薬代の節約にもつながります。「いつも同じだから、記載しなくてもいいや」というのも困ります。通院間隔や投与期間も、服薬には重要な情報です。

お薬手帳は自身のための確認とともに、医師・薬剤師に服薬情報を正確に提供するという大切な役割があります。病院にかかるときや、薬局で薬を受け取るときは、保険証と一緒にお薬手帳を提出してください。小さなことですが、皆さんの健康を守るためにはとても大切なことです。薬を見直そうと思った場合は自己判断で内服を止めず、お近くの薬局に相談してください。

【旭匠薬剤師会】